

兵庫県立淡路聾学校の経緯について

淡路聴覚障害者センター職員 吉川 稔

こちらの兵庫県立淡路ろう学校の経緯について、吉川です。お配りされている資料の方、私のプロフィールのところ、間違いがありますので、訂正しておいて下さい。「淡路町各障害者センター」となっているのを「淡路聴覚障害者センター」と直しておいて下さい。

私は今日、山田さんから頼まれたのはろう学校の経緯、歴史—がわかるかと聞かれて、ろう学校の資料をお渡ししました。原さんという方が、大阪府立ろう学校を卒業されて という歴史があるということで、そのことをお話して欲しいと言われてました。いろいろ迷ったんですが、とにかくお受けして今日は参りました。

昭和21年、国が公的にろう教育を始めるということで、昭和22年に12月30日、ろう盲児童に対する義務教育制度、教育が必要だとして、義務教育制度が決定しました。昭和23年、兵庫県立神戸ろう学校はその当時ありましたけれども、姫路、豊岡、淡路にはまだありませんでしたので、豊岡、姫路に関しては、盲学校は設置せず、ろう学校だけの設置、淡路については盲学校とろう学校を設立を県に申請して、併設するかたちで学校が立ち上がりました。造られることになりました。

なかなかないことないと思いますけれども、ろう学校と盲学校が併設されています。この人が、奈良の研究レポートにもあり、奈良の人の研究レポートにもありましたけれども、登八郎（のぼりはちろう）さんという方です。生まれは淡路で西淡町（せいでんちょう）というところの津井（ついでん）というところで生まれました。

大阪音楽大学に入学された後、卒業されてろう教育に関心を持ち、名古屋ろう学校に教師として就職され、その後奈良ろう学校、また大阪府立ろう学校に変わられました。

当時、淡路にはまだろう学校ができてなかった頃昭和23年、設立まで兵庫県から登八郎さんに校長になって欲しいとって要請をしたんですが、大阪府立から淡路ろう学校の校長になりました。昭和23年9月、原さんといったら、大阪府立ろう

学校に通ってました。そのお父さんが淡路の小学校中学校の教師をされていたのが退職されて、ろう学校の設立の準備室、準備の事務所として生徒募集というのを、ここで準備を始めたということです。



昭和23年10月30日、県に正式に認可を得て、生徒はまだ いませんでしたが、10月までに生徒募集をしようとし12人の ろう児、盲児が1人、入学した。洲本市の大きな海水浴場の近くにくまんがあるんですがそのうしろに実業高校の部屋を借りて、講堂で小さなところですが、教室と先生と盲の子供たち、一緒にやってし、やっていました。それで昭和24年、校舎を作って正式にスタートしています。

昭和23年12月31日、登先生が正式に校長に命ぜられました。ろう学校と盲学校の校長を兼務することになりました。

この写真は当時の入学式の子供たち。24年の2月1日に入学式がありました。当時年齢は関係なく小さな子供5歳6歳ぐらいの子供から20過ぎ大人もいました。戦争のために大阪や神戸から淡路に帰ってきた子供たちを集めて一緒に、学び始めたわけです。10月30日、開校式典が、開かれました。

入学当時よりも子供の数は増えて、ろう児28名、盲児は5名、職員20名、来賓もおったし、参列者もみえました。この時は川本先生も来られました。その後、滋賀ろう学校の西川はま子さんも講演に来られたということもあります。

手話も使わないで声も上手、非常に口話が上手だっていうことの話がありました。

最初その年実業高校の場所を借りていた訳ですけど、盲学校とろう学校の看板が門の右と左に

建てられ、つけられていました。この写真は開校当時のものです。

集団補聴器は当時としては、珍しく新しいもので昭和25年に導入され、購入されました。子供たちには大きな子供もいますね。

このあと狭い場所を借りていたのを、昭和24年から25年頃まではその場所を使っていましたが、少し離れたところに山を切り開いた少し広いところ、一坪300円で広いところを敷地として本館の工事が始まりました。

この写真が本館です。その後、寄宿舎が建設されていきました、下の写真です。コンクリート鉄筋ではなくて木造ですね。24年から27年まではまだありませんでしたけれども、後にやっと建設されて移転しました。

プールも新しく作ったり体育館もできました。下の写真が全体像ですね。真ん中のところがろう学校で、写真の奥のほうが盲学校です。学校は同じ敷地にありましたけども、勉強は別に行っていました。プールなんかは同じものを使っていました。これは今の建物です。私の時は、このような校歌はありませんでしたけれども、後にあの校歌も作られました。だからちょっと違和感があります。

現在の校舎です。けっこう大きいんですけども生徒はいないんです。今朝、60周年の記念式典があって、その後こちらにやってまいりました。盲学校、ろう学校合わせて卒業生が300人になります。

盲学校は現在、生徒一人で、来年閉校となります。60周年を以って歴史に幕を閉じることになりました。

知的障害の子供たちを受け入れるかたちで併設になることになります。知的障害の子供たちが今、20人くらいいます。非常に子供の数が減っている状況です。

この写真は、原さんご紹介なんですけれども、原さんの生い立ちを簡単にお話します。原さんという方は、先ほど言いましたように大阪府立ろう学校に行っておられた方なんですけれども。生きておられれば90ぐらいになるという方で、私がお会いしたときに、手話ではうまく通じなくて私も小さかったんですけども、口話でお話をされ

てて手話では通じませんでした。

最初に入りました時に、ろう学校ってところでその先生方、まず事務所を設けた、というきっかけが、原さんのところだったということなんですけれども、そういう経過の中でろう学校ができたわけです。

あの給仕を原さんはされておられて、教師というかたちではなくて、寄宿舎でいるんな子供のお世話をするという仕事をずっとしておられました。今だと用務員という言葉でいうかと思えますけれども。子供の世話にお茶を出したり、お掃除をしたり、お手伝いをさせていただきました。



私との関わりというのは、ろうあ者相談というかたちで、淡路の聴覚障害者センターができてからの関わりが1年半くらい出会いしました。あの方は一人暮らしで高齢になっておられて、また、お友達もいない寂しいという状況で、あの口話ではなかなか通じないということで筆談をして、コミュニケーションをとっておられました。

何か困ったことがあるかというようなことで、出会いをしていったんですけども、私が行くときには必ずお饅頭とかお茶とかを出して歓迎をして下さるんです。そして、1時間くらいお話をしているということが1週間に1回か2回、訪問するというかたちになってだんだん明るくなってこられて、お付き合いをすることができました。

そのあと、出会いするようになってから1年半ぐらい、訪問しようと思ったら、あの家に行ってもそのドアが開かないんです。そして原さんの弟さんがおられて、弟さんがやっぱり姉が高齢で一人暮らしだから心配だ、ということで、明石のほうの病院にあの入れましようということで、しば

らく明石のほうの病院で弟さんが面倒見て、おられたんですけども、なかなか弟さんも仕事が忙しくて、やはり面倒が見れないということで、淡路のほうに帰ってこられて、グループホームに入られて生活をしておられました。

でもやっぱり、そのグループホームでもコミュニケーションがとれないということで、どなたともお話ができない、という非常に苦しい思いをされました。そしてだんだん痩せてこられて、という状況を見て、ちょっとびっくりしたんです。その亡くなった後見ますと、何も残ってないという状況で、もしその生きておられれば、淡路のふくろうの郷に入っていただけたんじゃないかなと思うんですけども、亡くなられたのは6年くらい前で、非常に残念だなと思います。

次の写真はあのろう学校の左の上のほう、こう何人かおられますけれども、ここにもあの原さんが写っています。これはの~浜に海水浴に海水浴場を浜の海水浴場の近くで撮られた写真です。

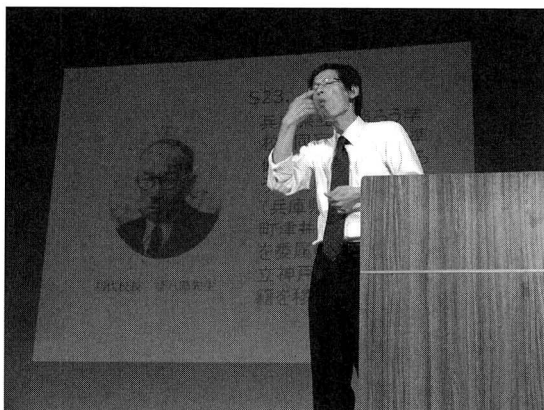
こちらは淡路の同窓会、1月3日に皆さんがお集まりになる同窓会です。下の写真は昭和56年ぐらいです。それからいろんな行事なんかも開催された様子をご紹介します。

この写真で最後なんですけれども、皆さんもご存知かと思いますが。今日は本を販売していますけれども、淡路におられ、とても心の優しい方の古山さんという方で、学校には行ったことがないんですが、いろんなことを自分で知るといこと。いろんなところに行って、いろんな物を見たり、大変趣味がある方でとてもいい方なんです。

残念ながら、ろうあ老人ホームの「ふくろうの郷」ができる前に亡くなってしまいました。

「畑をこうやってするんだ」というようなことをいろいろ教えていただきました。

今日は古山さん紹介の本も持ってきておりますので、ご購入下さい。



現在の

兵庫県立淡路聴覚特別支援学校

〒656-0053 兵庫県洲本市上物部2丁目1番17号

TEL 0799-22-1766 FAX 0799-25-2288

兵庫県立淡路ろう学校の沿革

S22.12.30 ろう・盲児童に対する義務教育制度の実施が閣議に於いて決定

S23. 1.30 ろう・盲児童の義務教育制度の実施に伴い、本県に於いても県立神戸ろう学校県立盲学校の外に新たに姫路地区と豊岡地区にそれぞれろう学校、淡路地区にはろう学校と盲学校が併設されることに県会で決議された。

S23. 4. 1

兵庫県立淡路ろう学校 同盲学校開設準備のため大阪府立ろう学校教諭登八郎氏（兵庫県三原郡西淡町津井出身）に任務を委属のため兵庫県立神戸ろう学校に職籍を移す



初代校長 登八郎先生

S23. 9.25

洲本市幸町原幹一氏（令嬢幸子さん大阪府立ろう学校在学中）の自宅を開設準備のための事務所と定め、生徒募集を始める



開校までの仮事務所となった原氏宅

S23.12.21 生徒募集要項、第2回目発送 15名



S23.12.31 兵庫県立神戸ろう学校教諭登八郎氏 兵庫県立淡路ろう学校の初代校長に補せられ同淡路盲学校長として兼務を命ぜらる

S24. 2.1 盲・ろう児童入学式

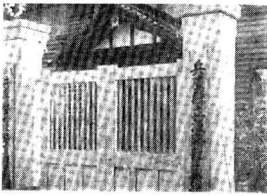
S24. 2.1 授業開始ろう学校生徒12名 盲学校生徒1名



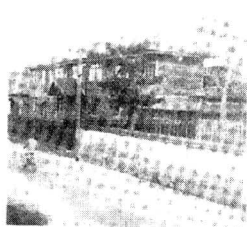
開校当時本校入学を希望して来た子どもたち (S24.5)

S24.10.30 開校記念式典 児童生徒聾学校28名 盲学校5名 職員20名 来賓父兄参列者150余名参列

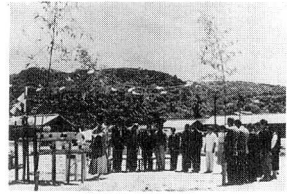




(S 24.10) 開校当時の正門



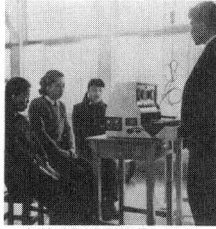
(S 24.10) 開校当時の校舎



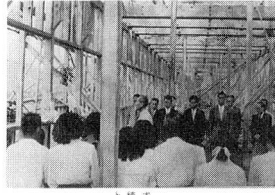
現在校地に於ける地鎮祭



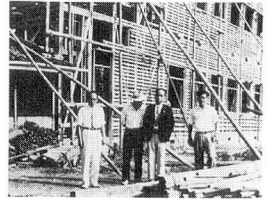
本校に初めて集団補聴器が導入された
(ホソノフォン) S 25.



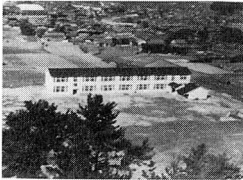
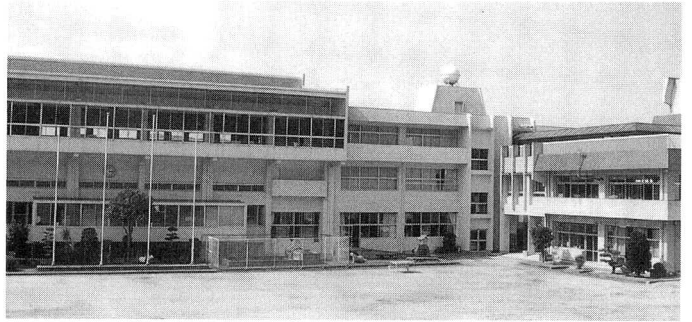
本校初めての集団補聴器(ホソノ式)



上様式



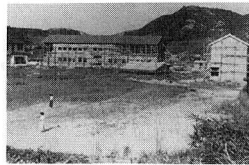
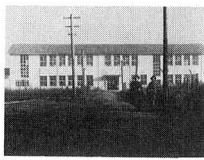
全校舎の風景



昭和27年頃の校舎



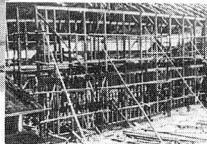
創立十周年記念



本館ならびに附属舎建築中



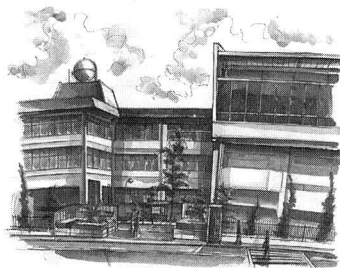
本館ならびに附属舎建築完了



本館建築中



校訓
自重自治
敬愛協調
忍耐努力

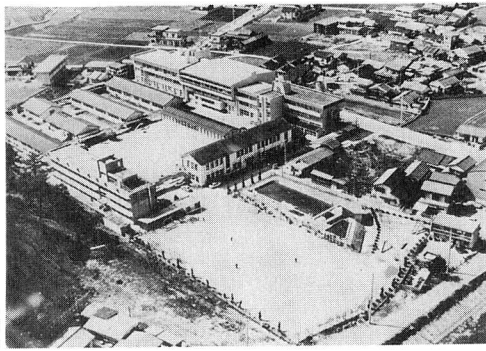
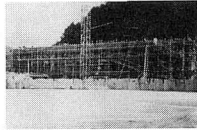
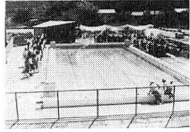
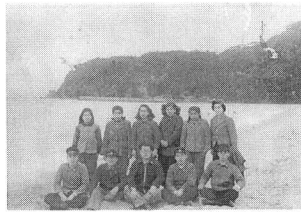


校歌

一、三島の幸に、恵かれて
其の乃げ、知らぬ
昔の世に、とどくまで
洗路学校

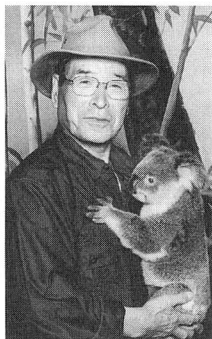
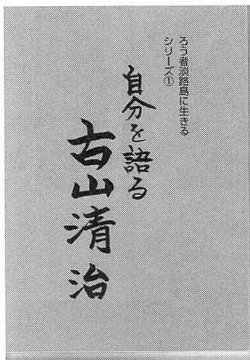
二、十年の望の、学び舎に
清く明るく、たすけあい
輝いた方、ここにあり
われらの、洗路学校

三、父母のほげまし、師の教も
明日の希望へ、まっしつら
大地をけって、羽ばたこう
われらの、洗路学校



ろう者淡路島に生きる

- 自分を語る古山清治



原 幸子さんの生い立ち

- 洲本市西幸町（現在の本町七丁目）
原幹一氏宅である。
- （幸子）T7.7.21生まれ
- 大阪府立ろう学校へ入学
- 兵庫県立淡路ろう学校設立準備のため
- 在職 S24.1.5～S56.3.31 約32年間
- 淡路聴覚障害者センターの関わり

